

【シンポジウム建設未来京都フォーラム2016】無事終了いたしました。

2016年10月18日に開催いたしました「シンポジウム建設未来京都フォーラム2016」に建設業の方々をはじめ、研究者、行政関係者の皆さま約200名を琵琶湖疏水蹴上インクラインのほとりに位置する京都市国際交流会館にお迎えし、無事に終了いたしました。お忙しいなか、ご参加いただきました皆さま、また、ご後援、ご協力を頂戴いたしました皆さまに心より御礼申し上げます。

今年は、研究者、専門家の方々に加え、地元京都府、滋賀県の建設業で働く皆さまにもご登壇いただき、建設業の課題や展望について多様な意見交換を行うことができました。これからも建設未来京都フォーラムでは、建設業がより良い未来を目指す姿を見つめてまいります。

建設未来京都フォーラム事務局



オープニング

「今こそ未来志向で発想を！」

●プレゼンター 佐々木賢一 氏 (トライポッドワークス株式会社 代表取締役社長)



登壇トップバッターは、仙台市を拠点に全国各地でUAV(ドローン)による映像サービスを展開する佐々木賢一氏。冒頭に採石工事現場のドローンによる動画を紹介しながら、

i - Constructionの具体的活用事例について解説を行いました。ドローン撮影による測量や水理モデルの作成、工事現場のダイナミックな動画のリクルートプロモーションでの活用、3Dモデルによる積算などの事例を紹介。また、長期間に亘る定点観測をプログラミングした映像が建設業をはじめ介護、農業分野で活用できる可能性や、危険な場所や高所からの俯瞰撮影、またヘリコプターなどに代わり低コストを実現できるものとして、

i-Con時代に向けた可能性を提言。

さらに、参加者の眼前ステージ上でドローンを使ったデモ飛行が行われ、会場は晴れやかな雰囲気に包まれました。

最後に、今回のフォーラムのテーマ、人と技術を繋ぐ“もの”として、“映像”的活用を挙げました。

パネルディスカッション

「人と技術を繋ぐもの」

●コーディネーター 建山和由 氏(立命館大学理工学部環境システム工学科 教授)

●パネリスト 和佐喜平 氏 (国土交通省近畿地方整備局 企画部技術調整管理官)

高田守康 氏(日本マルチメディア・エクイップメント株式会社 代表取締役)

佐々木賢一 氏(トライポッドワークス株式会社 代表取締役)

2016年4月に施行された国土交通省が推進するICT技術による建設業の抜本的な効率化を目指す「i-Construction」。以降、その導入をめぐり、建設業では人員が不要になるのではないかなど、その全体像について様々な受け止めがある現状。そこで、i-Con施策が目指すものについて意見交換が行われました。

コーディネーターの建山教授は、建設業の担い手不足が続く中、人でなければできないことと機械化やICTを推進して合理化すること、つまり人と機械を融合させた生産システムの確立が必要としました。和佐技術調整管理官からは、10年後には、55歳以上の退職に伴い、技能労働者の1/3にあたる110万人が減少し技術継承が困難な状況となるが、これを生産性向上のチャンスと捉えたとして、ICT活用工事の推進に向けて導入された15の新基準や積算基準、推進体制などを紹介。また、発注者と受注者の意思統一の必要性などi-Construction推進の目的と施策の背景について解説がありました。

佐々木賢一氏からは、建設事業者がITに振り回されることを危惧している。たとえばIT事業者を利用するなど、できることから手がけていくことが大切だ、との見解を述べました。

また、高田守康氏は、建設事業者に向け、ICT活用工事について、まずは費用がかからず教育センターなどを活用して、実現していくことを提言。さらに女性や若者が活躍する時代に向け、ICTを活用する業界になることが必要だとして、そこではICT導入を目的にするのではなく、時間短縮や省力化など、具体的な目標を設定して取り組むべきだと提言。

最後に建山教授から、一人で悩まず、ぜひパートナー企業を見つけてほしい。一緒に取り組むことで、課題の多い建設業において、コミュニケーションが出来、人と人が繋がることにもなるという見方を示しました。



トークセッション

「建設業を拓く人づくり」

●パネリスト

小坂田英明 氏(株式会社小坂田建設 代表取締役)
石岡秀貴 氏(株式会社石岡組 専務取締役)
小野貴史 氏(株式会社小野組 代表取締役)



少子高齢化、慢性的な若手入職者、技術継承者不足に対し、国土交通省では、建設業の女性技術者・技能者の倍増計画を発表、さらに技術者の減少を上回る生産性向上の確保を求めてi-Constructionを推進中。

変革期の建設業で奮闘する三人の若手経営者が建設業における人づくりの課題と展望を熱く語りました。北海道、新潟、岡山県、それぞれ三人三様、地元の状況に合わせた経営について、スライドを使った報告と意見交換では、小野氏は、新潟県の限界集落とされる地域で、「会社は人なり」として処遇重視の経営により、高い定着率を実現。北海道で石岡氏は、徹底したコスト管理により、経営の立て直しと、残業や休日出勤ゼロの実現を報告。岡山県の小坂田氏は、公共工事の比率を減少し、住民のニーズに即した、地域密着型の経営に切り替え、倒産回避に成功。また、住民との交流から新たな担い手を確保できたことなど、豊富な事例を紹介しました。



全体ミーティング

「みんなの建設業」

●コーディネーター

高田守康 氏(日本マルチメディア・エクイップメント株式会社 代表取締役)

●ミーティングパネリスト

京都府及び滋賀県の地元建設企業の皆さん (5社8名)

大石耕造 氏(京都府建設交通部 理事)



一建設業で女性が働くこととは？ 立場を超えてみんなで話そう

全体ミーティングでは、京都府、滋賀県の建設業で働く方々8名にご登壇していただき、高田守康氏の進行のもと、建設業への思いや現状について、意見交換しました。また、登壇者の半数が女性参加者でもあり、「女性が建設業で働くこと」「若手育成」について、男性・女性という性差や経営者、現場代理人、事務職という立場の違いを超えて発言。それぞれの立場からの率直なご意見に対し、京都府建設交通部理事の大石耕造氏を迎えて、コメントをいただきました。



講演

「人材投資産業になる～若者、ベテラン、女性それぞれへのアプローチ～」

●講師 内田俊一 氏(一般財団法人建設業振興基金 理事長)

建設業の担い手確保のためには、若者の早期離職を食い止めるためにもやりがいを実感できる一人前に育てる教育・訓練に投資する取組みが必要とのこと。

また、ベテランの活用については、生活設計が可能な処遇への投資が必要として技能者の履歴や取得資格を蓄積するデータベースの構築の構想が示されました。

女性活用は、人口減少社会到来に向けて、もはや女性活用は選択ではなく、必須であるとの見解を述べ、建設業が「人」を大切にする産業になるためのアプローチが提示されました。



プレゼンテーション

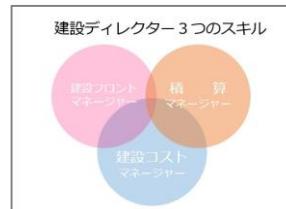
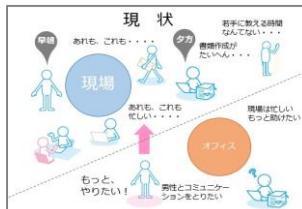
「新たな職域 建設ディレクター」

●プレゼンター 新井恭子 (京都サンダー株式会社 代表取締役)

現場とオフィスをビジネススキルと豊かなコミュニケーション力で繋ぐ

“建設ディレクター”とは？

ITスキルとコミュニケーション力、積算、原価管理の知識の育成により、建設業における新たな職域、「建設ディレクター」について、提案がおこなわれました。



記念事業

『インタビュー集』

“女性たちが語る建設業の未来”

—私にもできるはず—

建設業に関わる女性のお声を集めました！

建設未来京都フォーラム2016 記念事業

インタビュー集

“女性たちが語る建設業の未来”

—私にもできるはず—

建設未来京都フォーラム事務局

建設未来京都フォーラムのページに開催報告と記念事業を掲載しております。ご覧くださいませ。
<http://www.kensetsumirai.jp/>